



ウェルビーイングな地域社会の実現についてトークセッションする宮下知事(奥左から2人目)や福田学長(同3人目)ら

産学官金連携で発展を

ウェルビーイング領域
ビジネス化に理解

県は31日、ヘルスケア産業を含むウェルビーイング

理解を深めた。

(心身と社会的に健やかで幸せな状態)領域でのビジネス化促進に取り組む「あ

おもりWellbeing Biz プラットフォーム」のキックオフフォーラムを、弘前市のアートホテル弘前シティで開いた。

会場とオンラインを含め、県内企業の担当者ら約300人が参加し、地域と産業の発展に向けた新規事業に

世界的に成長が期待されるウェルビーイング市場。事業では、世界トップレベルのウェルビーイング研究の推進、産学官金民のネットワークを構築する弘前大学と連携し、県内企業や団

体を対象に、同大COI-NEXT参画企業をはじめ異業種間の情報交換や連携構築、同大の研究成果を活用した商品・サービス開発を支援する。

プラットフォーム立ち上げを記念したフォーラムでは、宮下知事が「弘前大が蓄積してきた世界に誇る健康ビッグデータは地方創生の強み。産学官金連携で県内企業の振興、地域経済活性化を図っていく」とあいさつ。

トークセッションでは、ウェルビーイングな地域社会の実現や産学官金連携で

取り組み重要性について、福田眞作同大学長が「地域発展には産学官金がそれぞれの役割を果たしながら、共通の目標に向かって連携して取り組むことが不可欠」、石川啓太郎青森みちのく銀行取締役頭取が「地域のウェルビーイングが雇用確保、若者定着、地域経済の循環につながる」と意見を述べた。

基調講演では村下公一同大副学長が「岩木健康増進プロジェクト」をはじめ蓄積した健康ビッグデータを基盤に構築した共創体制などを紹介し、「ウェルビーイング市場は大きな可能性を秘めている」と強調。「チャンス逃さないでほしい」と呼び掛けた。

(稲葉智絵)

弘前でフォーラム